

大峰山脈縦走に参加して

宮沢典男

正しくは大峰山脈吉野—熊野全山縦走である。編集班の方から合宿の参加の記を書いて見ろと言われて書き始めたのであるが、どうも日数が経てわざとらしくなるので、疲れた目とテントのうす明りに照されて書いた当時の山日記からのせることにしました。原文のまま以下に記してみました。

1960年7月3日

一行12名は午前10時45分先輩清氏の見送りを受けて近鉄南大阪線阿部野橋駅を出発した。昼食を吉野駅でとった後、カラカラと滑車の音を立てている空中ケーブルを横手に見ながら吉野山に登ると云うことは大層つらかった。空中ケーブルに乗ると五、六分で登れる所だからである。頂上の人通りの多い所を通りぬける頃になると勾配が急になり、それとともに寸前近くのザツクが遠慮なく肩に喰い込んで来た。ペースも落ちて来た。リーダーに聞くと普通より二倍の時間を費しているとのことだ。木々の間から鳥居が見えた。オー日目の設営地、金峰神社だ。登山のオー日は成程苦しいものだとはよくわかった。

7月4日

縦走というものは実に忙しいものだ。朝は早くから出発し夜は明日のためおそくとも七時までには就寝しなければならぬ。昨夜、今朝と二回分の食糧が減ったためかザツクが少し軽くなったように思われる。いや肩がザツクになれたのかも知れぬ。後方を見ると吉野山が小さく下になっている。人気のない新茶屋を過ぎ、くすれかゝって、がらんとなつた百丁茶屋に着く頃には吉野の町は全く見えなくなっていた。これでしばらく人衆ともお別れだ。そうこうしているうちに空腹を覚え始めた。まだ9時だ。朝食は五時、昼食は十時。行程は30分に5分の休憩となつている。昼食にはカンパンとジューズだ。もう大峰山中なのであろう。二組の白衣の行者に出会った。五番関を通る頃雨が降り出し雨具をつけずにはいられなくなるほどになった。濡れた岩場を必死になつて登るのだが、特に鍋をかついでいる者は左右に乗れて苦しそうだ。雨は更に激しくなり、足元はつるつる滑るし疲労度が加わり睡魔が襲つて来た。歯を食いしばつてうつろな旅

をガスのある前方に向けた時、黒いものが眼に写った。小屋だ。祠辻茶屋だ。“小笹の宿”への旅行は断念せざるを得なかった。茶屋には二人の住人が飲食品を売っており特に我々の目に止ったのがカ餅だった。

7月5日

食事係は二班に分けられ一日交代であたることになっていた。5時に起床して戸外を見ると相変ず風雨は激しい。我々の献立は種類こそカレーライス、ハイシライス、チャーハン、味噌汁、スープ等バラエティに富んでいるが材料は常に同じ。そこを我々が腕によりをかけて栄養食をつくるのである。大坂を出発する際に先輩にウイスキーを一人に一本持たされたが昨日の風雨による寒さから2、3本からにしてしまったので上級生に取り上げられてしまった。残念無念腹が立つ。それに上級生のザツクが余りにも軽い。もう少し上級生が荷物を持ってくれたならばペースも速くなって良いのにと。我々新人は大いに不満を言ったことである。山の天候は変化しやすいものだ。10時頃日本晴になった。茶屋の人に別れを告げて鐘樹岩、面現岩への本格的な岩場をやつて来た。上級生の「ガンバレー、フアイト」の音が一段と救しくなった。どうもK氏の掛け声が耳につく。“山上ヶ嶽”の頂上だ。中央には山上権現と云う建物があつてこの辺は全くの女人禁制だ。昼食後坂を40分程下ると“小笹の宿”が見えた。こゝは小屋はなくテントを張らねはならなかつた。しかし我々新人にとってはテントの方が好都合なのである。各々四つのテントの中で自分達好き勝手に食べながらいろいろ話をするのが唯一つの楽しみだったからである。

7月6日

例の如く6時に出発。11つきに坂を登りつめると眼下に広大な海、いや雲界だ。何んと美しい光景であらう朝日に輝いて。私はこういう光景をいや。因、は日本絵巻にしかないと思つていたが、山ならではのこの美しさにしばらく恍惚となつてザツクの重さにも気がつかないほどであつた。“脇宿の趾”。“大普賢嶽”を通る頃から一層岩がふえ、新人のK君T君は身体の調子が悪いのか全く我々から離れてしまった。やつとの事で“行者還”の小屋に到着。小屋の前方には明日めざす“弥山”が雄々と腰を据えている。食事の時、上級生のM氏のカレーの中のに噛んだガムがは入つてあつたのは我々食事係の不覚と云えケツサクであつた。食後花火大会を行い今日の疲勞を慰め、明日へのフアイトを約束した。

7月7日

“弥山”は眼に見えて近いようではなかなか近寄れない。登りになった頃A氏の

顔を見るとブトにさされたのが右まぶたがざくろのように真赤にふくれて右眼を閉じての歩行であつた。やつと蘇山小屋が見えた。

7月8日

昨日の夕方からの雨は今日になつても一向にやみそうにもなくこゝで停滞だ。小屋には大阪の人が7、8人泊つていた。我々新人はうさぎ狩りのわな作り以外身体をもて余し手持ちぶさただつた。上級生は上級生でこれからの事を話していた。

7月9日

今日も雨でガスが視界を遮えざり停滞だ。小屋の炉端を囲んで、"ぞうすい"を作り歸ては食ひ、食つては歸るの一日で胃の調子がおかしくなり医療係のK氏の世話になる者が続出した。小屋に閉じ込められた時にはやつぱり皆と一緒にいろいろな歌を合唱するに限る。我々新人は時向を気にする医療係のK氏をもじつて作詞作曲に余念がなかつた。

7月10日

二日間の停滞のおかげで疲労は少し治つて様に見える。しかし今度は少しペースが速くなつた。"前鬼へ。と木に打ちつけた枝の標識を通り"八経ヶ嶽"に到着。関西唯一の高山で1914米。残念なことにガスの遮視界がきかない。細い道。イバラのある尾根伝ひの小道を行くと"揚子ヶ嶽"の小屋だ。シラフにもぐつてラジオを聞いていると昨日"山上ヶ嶽"で女人禁制が解かれたと放送をしていた。我々がつい、3日前に通つて来た所だけに皆、非常に感慨深げな様子であつた。

7月11日

山中の朝は空気がすがすがしく小鳥はさえずり全く気持が良い。"伝生嶽"をちとに最も険しくブツシユヤ岩のある"釈迦ヶ嶽"にさしかかつた。途中はんと流石のかわからないが"稼鼻"。と地図にある鼻の形を呈した岩がそびえ立っているのが目についた。"釈迦ヶ嶽"の頂上は非常に見晴がき、周囲の山々が一望に見渡すことが出来、頂上には3米程の観音像がすつくと立っていた。ここを下ればもう"深山の嶺"だ。夕食時にH氏の誕生日を祝つた。深夜中のキツネの来訪には一寸驚かされた。

7月12日

"大日嶽"のふもとに"前鬼口"への別れ道がある。我々は更に奥へと行かねばならなかつた。これからの道は戦後ほとんどが入つていないので、道らしき道

はなく獣の道を前進。先発隊O氏、H氏、M氏のおかげで“煉獄峠”、“地獄嶽”、“涅槃嶽”の辺りはKUECと書かれた赤い布が木々に絡んであった。それをたよりに我々は歩を進ませることが出来た。“持経の宿址”をあとに倒木でさえぎられた道をとび越えたり、くぐつたりしてやっと“平治の宿址”に着いた。ガイドブックには新築の小屋と在るが全くの笹でつくった小屋だ。近くにはダニが密集しているらしく身体中がかゆくなったのには全員閉口した。

7月13日

自分は今朝から全く身体の調子が悪い。今日は難路とされている所で、委わら鴨を深くかぶり軍手をはめての強行軍だ。背丈より高いスツシユをくぐるのに腰をかがめる事一時間、イバラ道を又60分、やっと“佐田辻”が見えた。自分の眼には辺りの景色がぐるぐる回り全く完全なグロッキー、H氏に助けられなんとか“笠捨山”を下ることが出来た。川のせせらぎが聞えて来た。“上葛川”だ。部落が見えた。

7月14日

部落を後によく整備された道を一路“玉置神社”へ。谷間には十津川村が呉々と在る。神社には人家があり、うまそうな清水が湧いていたが、上級生はどうも気むづかしく飲ませてくれなかった。我々新人は暑さの爲にお互に気が荒くなり不平不満たらたらだ。最後の山、大森山がすぐ近くだ。昼食後、カンカン照りの中何の日影もない大森山、頭にも照りつけられること90分、自分は昨日につづいてへたばつてしまった。A氏のザックにつかまりつゝリーダーと医療係のK氏とに助けられ又もブツシユを脱けると眼下に熊野川が大きく、広く眼に入ってくるころまでこぎつけた。午後六時“萩”の町に着いた。目がうるむ、喜びで胸が詰まり言葉数も少い。成功したのだ。山中での苦しい生活が走馬燈のように脳裏を駆け巡る。しかし我々新人にはまだ縦走に成功したのだと云う実感はわいてこない。我々はこの感激をいつまでも残すために記念写真を撮った。この経験は我々の人生の将来において何にかにきつと役立つことであろう。特に我々新人にとっては大きなプラスになった。

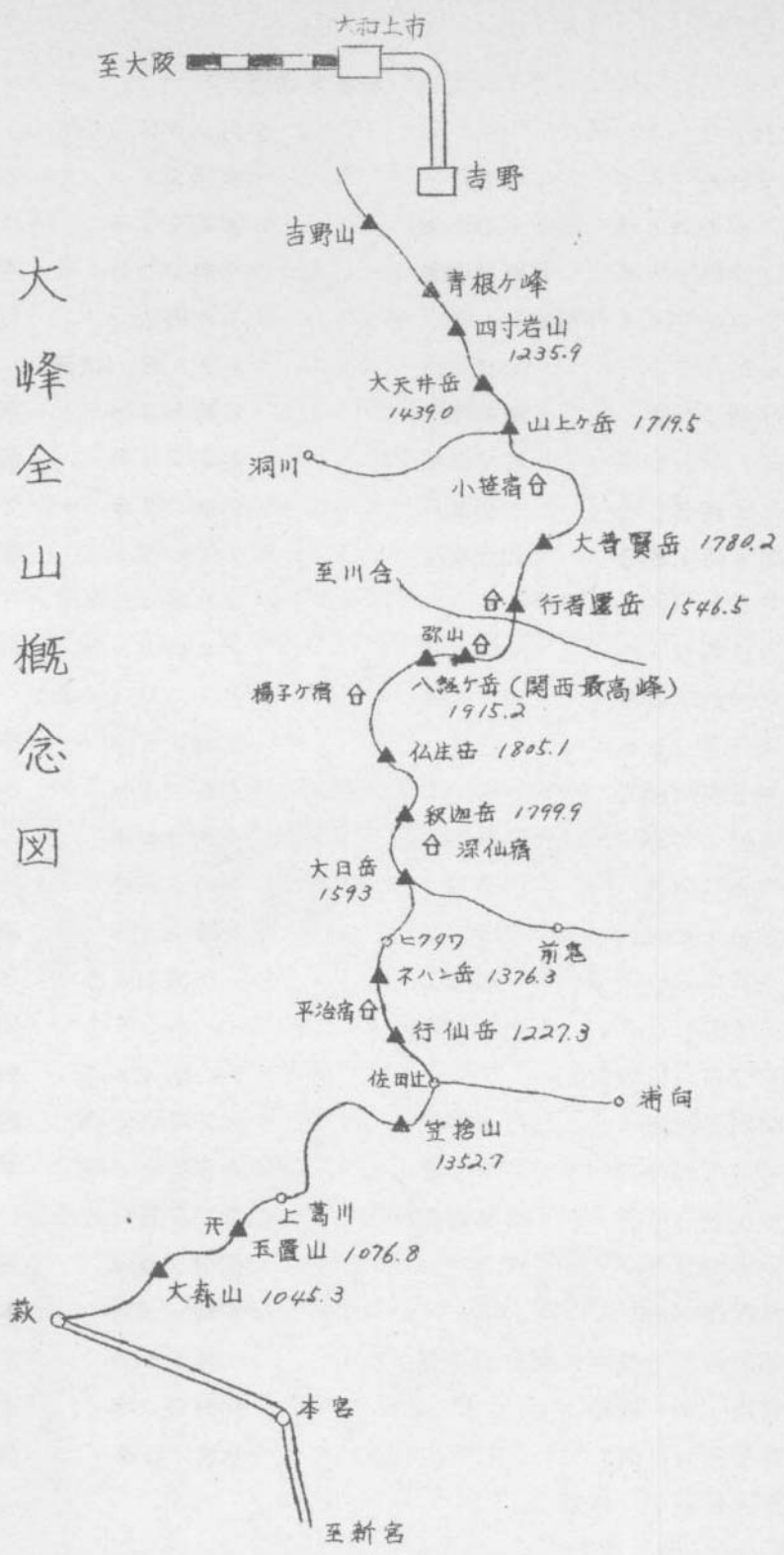
7月15日

午前11時“萩”の町を出発。我々は次第に遠ざかる山々にはごりをおしみながらバスの窓から手を振つて別れを告げた。一路新宮市に向つた。

7月16日

午前5時、天王寺駅着。

大峰全山概念図



大峰山脈徒走過程

7月3日 (晴)

13時30分 吉野
16時00分 水分神社
17時00分 金峰神社

7月4日 (くもり後雨)

6時35分 金峰神社
9時10分 新茶屋
11時30分 百丁茶屋
13時35分 五番関
16時15分 洞辻茶屋

7月5日 (くもり後晴)

10時45分 山上ヶ岳
10時10分 洞辻茶屋
13時10分 小笹宿

7月6日 (晴) :

6時50分 小笹宿
7時40分 小音賢
9時30分 サツマコロゲ

(昼食)

15時30分 行者還宿

7月7日 (晴後雨)

7時00分 行者還宿
8時50分 一ノタオ
10時35分 石林宿跡
12時05分 孫山

7月8日 (雨)

風雨強く午後ガス発生し視界10
前後。 停滯。

7月9日 (小雨)

ガス深し。 停滯。

7月10日 (くもり) ガス深し。

6時25分 孫山
6時55分 八経ヶ岳
9時00分 舟ノタオ
10時10分 楊枝ヶ宿

7月11日 (快晴)

6時50分 楊枝ヶ宿
8時25分 前鬼現
9時25分 カイズリギレット
10時15分 釈地獄
12時05分 (昼食)

12時35分 深仙宿

7月12日 (快晴)

5時05分 深仙宿
5時30分 太古辻
7時00分 天狗山
7時55分 嫁越峠
8時25分 地藏岳

10時00分 ヒクタワ

11時05分 涅槃獄

11時40分 無漏獄

12時30分 持経宿跡

15時00分 平治宿

7月13日 (快晴)

5時10分 平治宿
5時45分 靱法輪岳
7時55分 悠田宿跡
8時30分 行仙獄
9時10分 佐田辻

(昼食)

大峰山脈縦走過程

7月13日(快晴)

11時40分

15時05分

7月14日(快晴)

5時20分

6時35分

8時05分

9時15分

10時05分

麴川辻

上葛川部落

上葛川部落

道 標

花折塚

玉置神社

竹筒と笹尾の
分岐点

7月14日(快晴)

11時25分

13時00分

14時55分

19時00分

7月15日(くもり後晴)

7時00分

13時30分

石の道標

大森山

萩と熊野の分岐
点

萩

起床

新宮

鰻料理

舞 坂

木屋町店

木屋町大角下ル
電 ② 4147

京極店

第二京極角
電 ② 1318

河原町店

河原町京宝前
電 ② 1848

株 式 会 社

くずは文房具店

語学訳本

図 書

参 考 書

雑 誌

文 房 具

印刷引受

TEL 吹田 ⑤8

4 4 3 2

2 9 7 2

千里山大学前通り